

**2017年12月期 第2四半期**  
**決算説明会資料**

**荏 原 (6361)**

2017年11月13日

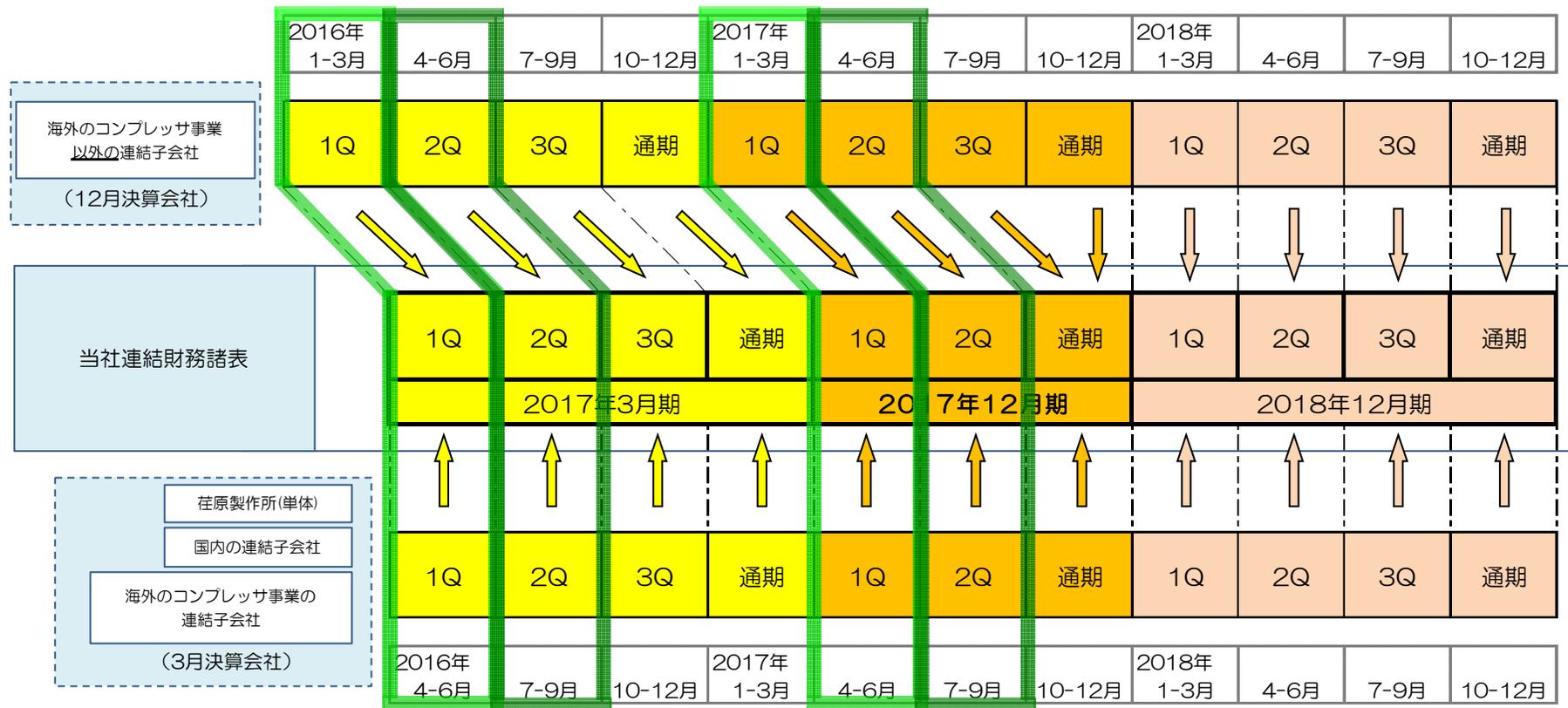


# 1. 決算概要

## 決算期の変更

### 決算期(事業年度の末日)の変更

- ✓ 2017年6月23日の定時株主総会での承認を受け、当社の決算期および連結決算期は、3月末から12月末に変更
- ✓ 当社および連結子会社のうち、決算日が3月末の会社は12月末に変更
- ✓ 経過期間となる2017年12月期は、2017年4月1日から12月31日までの変則9ヵ月決算となるが、  
今期1Q・2Qは前年同期と決算期間が同一



# 1. 決算概要

## 2017年12月期第2四半期決算 サマリー

(単位：億円)

	2017年3月期 第2四半期	2017年12月期 第2四半期	増減
受注高	2,241	2,419	+ 178
売上高	1,919	2,067	+ 148
営業利益	26	51	+ 24
経常利益	△ 2	38	+ 41
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△ 4	31	+ 35

為替レート  
(平均)

1ドル = 102.3円

1ドル = 111.6円

※本資料において「1Q」は3ヶ月累計期間、「2Q」は6ヶ月累計期間、「3Q」は9ヶ月累計期間、「4Q」は12ヶ月累計期間を示しています。  
またこのページ以降、特別な記載がない限り、数値の単位を『億円』で表示しています。

# 1. 決算概要

## 2017年12月期第2四半期決算 事業セグメント別

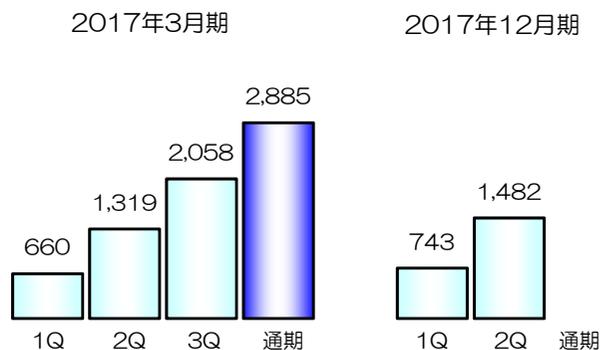
	受注高			売上高			営業利益		
	2017年 3月期 第2四半期	2017年 12月期 第2四半期	増減	2017年 3月期 第2四半期	2017年 12月期 第2四半期	増減	2017年 3月期 第2四半期	2017年 12月期 第2四半期	増減
風水力事業	1,319	1,482	+ 162	1,174	1,189	+ 15	△ 49	△ 50	△ 0
環境プラント 事業	333	351	+ 18	270	267	△ 2	17	20	+ 2
精密・電子 事業	580	578	△ 2	466	602	+ 136	54	79	+ 24
その他 調整	8	8	△ 0	8	8	△ 0	3	1	△ 1
合計	2,241	2,419	+ 178	1,919	2,067	+ 148	26	51	+ 24

# 1. 決算概要

## 2017年12月期第2四半期決算 事業セグメント別

### 風水力事業

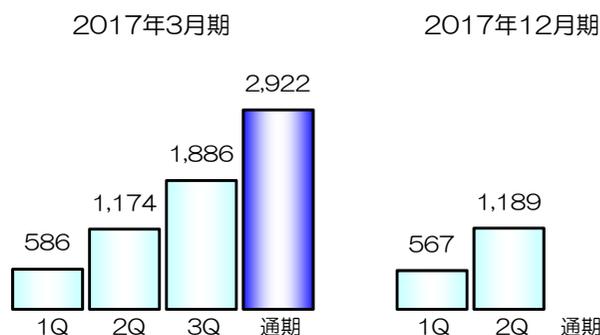
#### 受注高



#### 【受注高】

- ✓ ポンプ事業で標準ポンプが国内・海外ともに増加
- ✓ コンプレッサ・タービン事業の顧客の投資判断遅れは一部で底打ちがみられ始める

#### 売上高



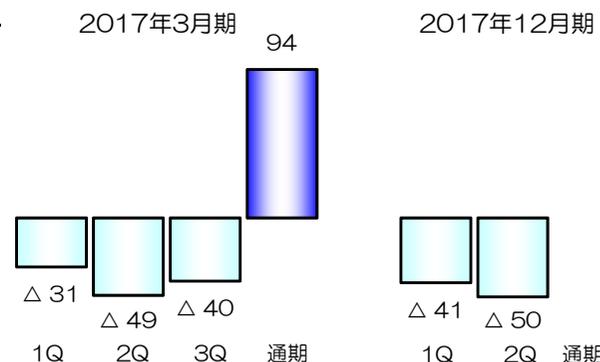
#### 【売上高】

- ✓ 主に円安で増収

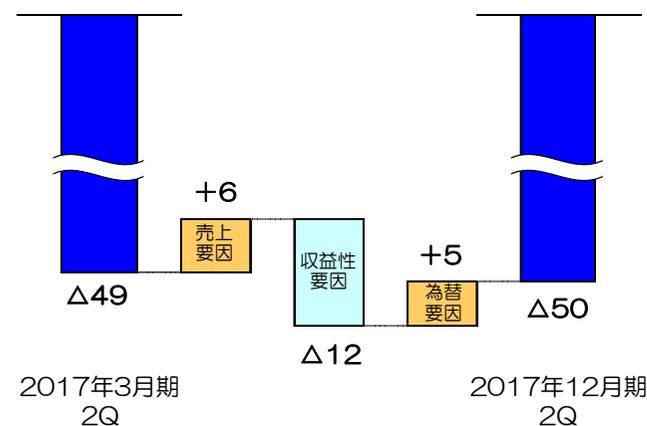
#### 【営業利益】

- ✓ 円安効果 (+)
- ✓ サービス&サポート (S&S) 売上の構成比が減少 (-)

#### 営業利益



#### 増減要因分析

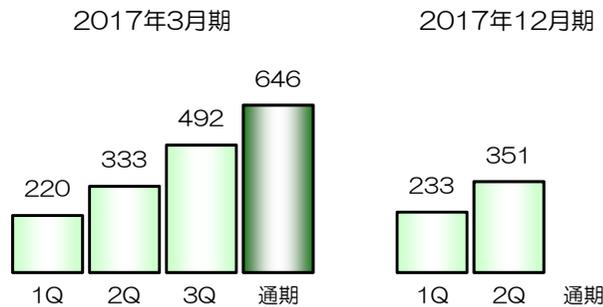


# 1. 決算概要

## 2017年12月期第2四半期決算 事業セグメント別

### 環境プラント事業

#### 受注高



#### 【受注高】

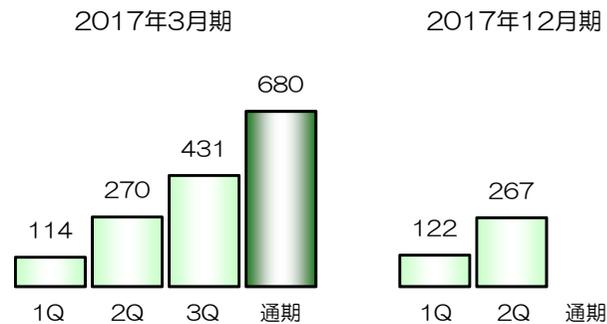
✓ 上期は例年並み

#### 【売上高・営業利益】

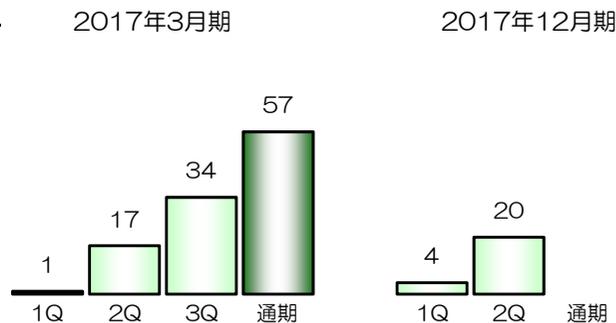
✓ 国内では延命化案件が減少するなど減収減益

✓ 中国の製造子会社で増収増益

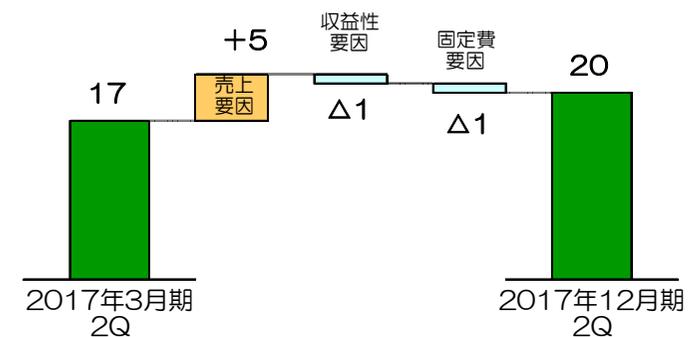
#### 売上高



#### 営業利益



#### 増減要因分析

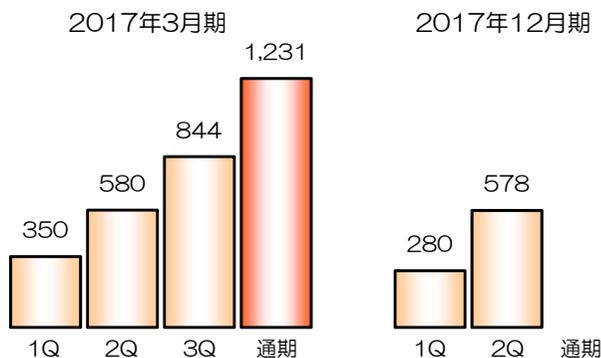


# 1. 決算概要

## 2017年12月期第2四半期決算 事業セグメント別

### 精密・電子事業

#### 受注高



#### 【受注高】

✓ 顧客の設備投資は引き続き好調

#### 【売上高】

✓ 好調な受注を背景にCMP・コンポーネントともに増加

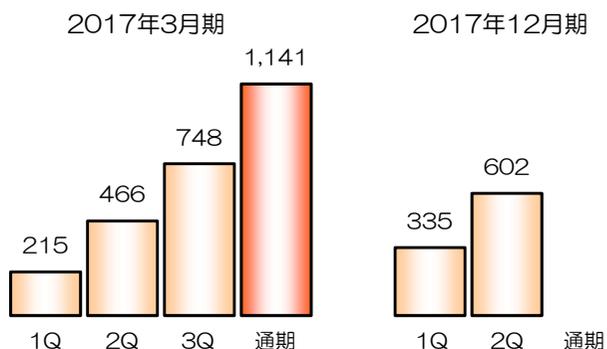
#### 【営業利益】

✓ 増収効果が大きく実現

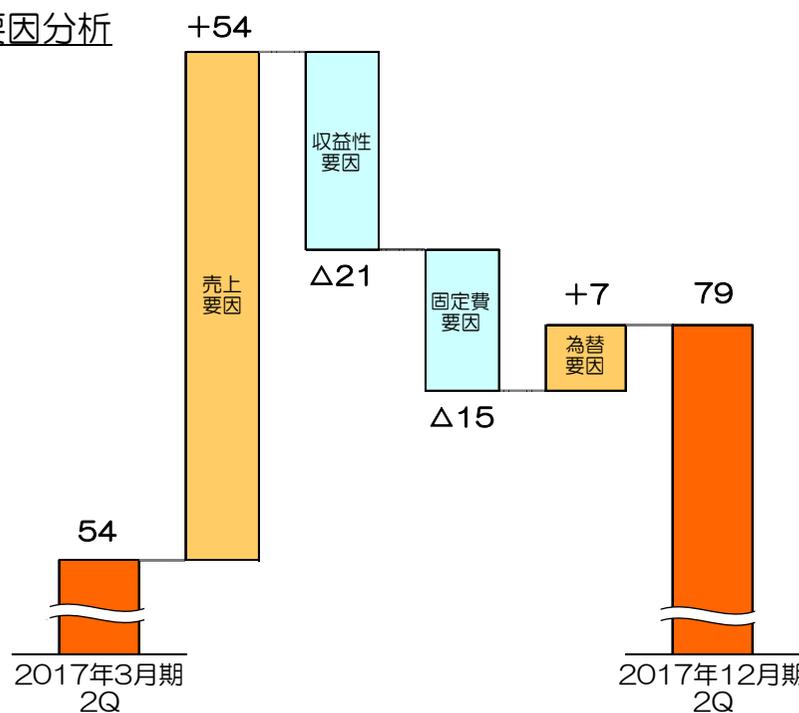
✓ 開発機や評価機といった先行的な費用や、

経費を中心とした固定費も増加

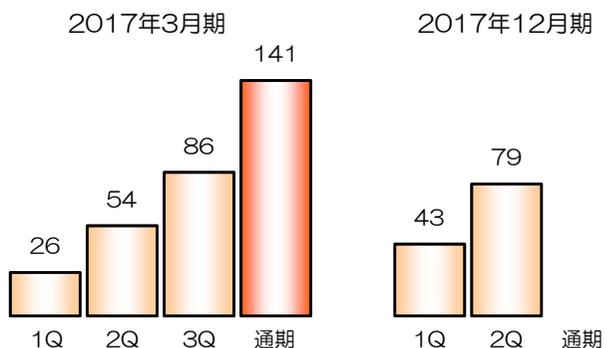
#### 売上高



#### 増減要因分析

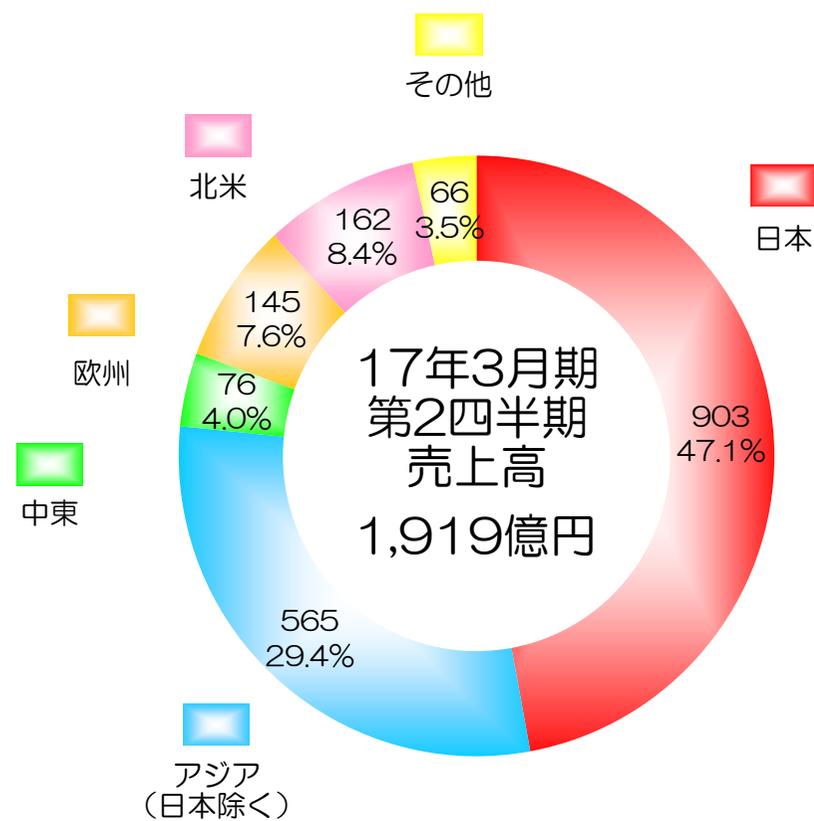


#### 営業利益



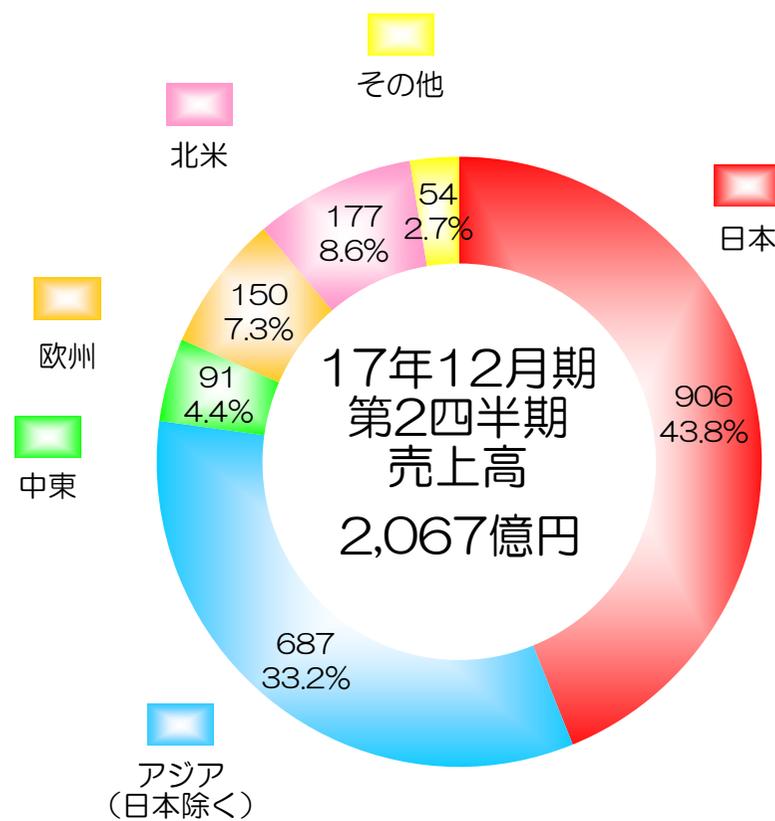
# 1. 決算概要

## 2017年12月期第2四半期決算 地域別売上構成



海外売上高  
1,016億円

海外売上比率  
52.9%



海外売上高  
1,161億円

海外売上比率  
56.2%

# 1. 決算概要

## 2017年12月期第2四半期 貸借対照表

	2017年 3月末	2017年 9月末	増減
流動資産	4,234	4,135	△ 98
現預金、有価証券	928	1,342	+ 413
売上債権	2,073	1,509	△ 564
棚卸資産	973	1,044	+ 71
その他	258	238	△ 19
固定資産	1,650	1,634	△ 16
有形固定資産	1,101	1,093	△ 7
無形固定資産	132	123	△ 8
投資その他	416	416	△ 0
資産合計	5,884	5,769	△ 115

	2017年 3月末	2017年 9月末	増減
負債	3,109	2,998	△ 111
仕入債務	1,200	1,058	△ 142
有利子負債	965	1,049	+ 83
その他	943	890	△ 52
純資産	2,775	2,770	△ 4
株主資本	2,774	2,775	+ 1
その他の包括利益	△ 60	△ 68	△ 7
新株予約権	13	11	△ 1
非支配株主持分	47	52	+ 4
負債・純資産合計	5,884	5,769	△ 115

# 1. 決算概要

## 2017年12月期 財務情報

### <経営指標>

	2016年 3月期	2017年 3月期
	実績	実績
ROIC	4.8%	5.6%
ROE	7.2%	8.0%
D/Eレシオ	0.50	0.36

### <キャッシュフロー>

	2016年 3月期	2017年 3月期	2017年 12月期	2017年 3月期 第2四半期	2017年 12月期 第2四半期
	実績	実績	計画	実績	実績
営業活動CF	+ 215	+ 338	+ 311	+ 262	+ 418
投資活動CF	△ 143	△ 185	△ 150	△ 92	△ 66
フリーCF	+ 71	+ 152	+ 161	+ 169	+ 352
財務活動CF	△ 96	△ 151	+ 106	△ 3	+ 50

# 1. 決算概要

## 2017年12月期 財務情報

### <資本的支出・減価償却費・研究開発費>

	2016年 3月期	2017年 3月期	2017年 12月期	2017年 3月期 第2四半期	2017年 12月期 第2四半期
	実績	実績	計画	実績	実績
<b>資本的支出</b>	<b>157</b>	<b>226</b>	<b>150</b>	<b>108</b>	<b>65</b>
風水力	97	118	60	57	29
環境プラント	5	11	10	4	2
精密・電子	33	74	50	33	24
その他	21	23	30	12	9
<b>減価償却費</b>	<b>116</b>	<b>137</b>	<b>115</b>	<b>61</b>	<b>73</b>
風水力	74	85	65	38	42
環境プラント	3	4	3	2	2
精密・電子	21	29	29	12	16
その他	16	18	18	8	11
<b>研究開発費</b>	<b>76</b>	<b>87</b>	<b>90</b>	<b>39</b>	<b>40</b>
風水力	50	47	35	20	22
環境プラント	1	2	5	0	2
精密・電子	24	37	50	18	15

<空白>

## 2. 今期の見通しと 経営戦略

### 2017年12月期 業績見通し(変則9ヵ月決算)

	<参考値>※ 2016年12月期 (実績) (A)	2017年12月期 (期初計画) (B)	2017年12月期 (見込み) (C)	増減 (対計画比) (C-B)	増減 (対前期比) (C-A)
受注高	3,854	4,040	4,040	-	+ 185
売上高	3,502	3,540	3,640	+ 100	+ 137
営業利益	114	150	160	+ 10	+ 45
経常利益	95	140	145	+ 5	+ 49
親会社株主に 帰属する 当期純利益	73	80	90	+ 10	+ 16

想定為替レート: 1ドル = 110円

	2016年				2017年				2018年			
	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
12月決算会社	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
当社連結財務諸表	1Q	2Q	通期		1Q	2Q	通期					
	2016年12月期				2017年12月期							
3月決算会社	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q

※ 2017年12月期と同一期間で比較するために  
2017年3月期の実績を変則9ヵ月に組み替えた  
数値を参考として開示

## 2. 今期の見通しと 経営戦略

### 2017年12月期 業績見通し(変則9ヵ月決算)

		<参考値> 2016年12月期 (実績) (A)	2017年12月期 (期初計画) (B)	2017年12月期 (見込み) (C)	増減 (対計画比) (C-B)	増減 (対前期比) (C-A)
風水力事業	受注高	2,315	2,380	2,430	+ 50	+ 114
	売上高	2,138	2,180	2,180	-	+ 41
	営業利益	△ 34	20	20	-	+ 54
環境プラント 事業	受注高	509	750	500	△ 250	△ 9
	売上高	457	450	450	-	△ 7
	営業利益	39	40	30	△ 10	△ 9
精密・電子 事業	受注高	1,016	900	1,100	+ 200	+ 83
	売上高	894	900	1,000	+ 100	+ 105
	営業利益	103	90	110	+ 20	+ 6
その他 調整	受注高	12	10	10	-	△ 2
	売上高	12	10	10	-	△ 2
	営業利益	5	0	0	-	△ 5
合計	受注高	3,854	4,040	4,040	-	+ 185
	売上高	3,502	3,540	3,640	+ 100	+ 137
	営業利益	114	150	160	+ 10	+ 45

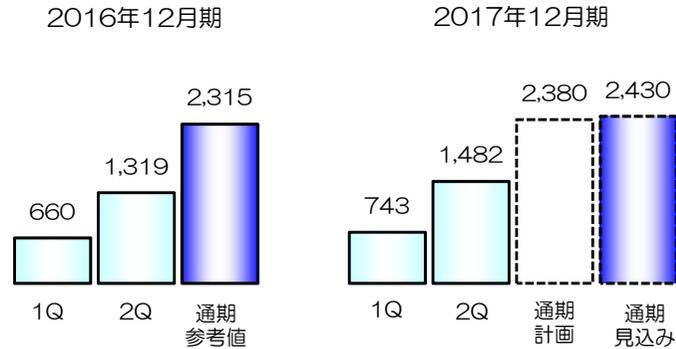
## 2. 今期の見通しと 経営戦略

# 2017年12月期決算見通し 事業セグメント別

### 風水力事業

(期初計画からの変更) <受注高>

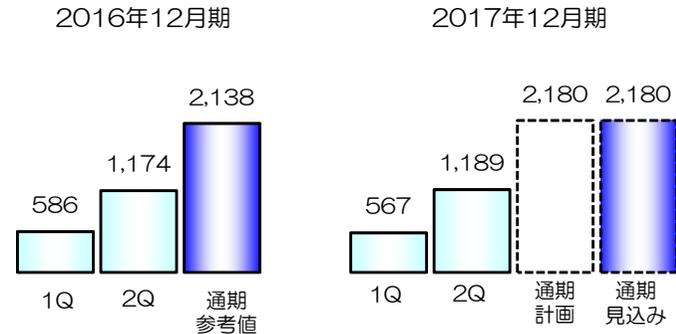
#### 受注高



#### 【受注高】

- ✓ 石油・ガスの市況は緩やかに回復し始めている
- ✓ コンプレッサ・タービン事業の受注を上方修正

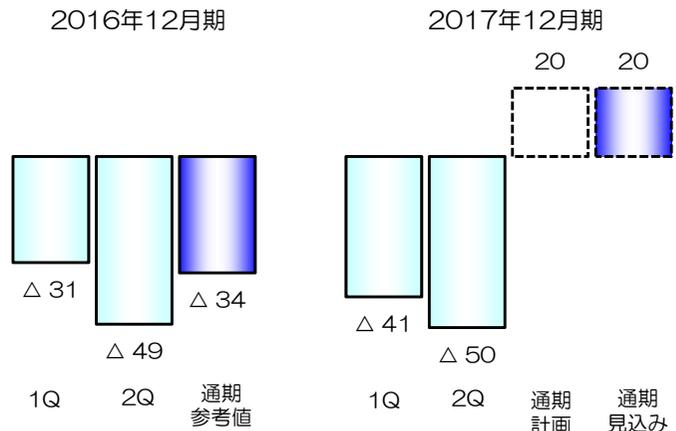
#### 売上高



#### 【売上高・営業利益】

- ✓ コンプレッサ・タービン事業のS&S売上と利益は遅れ気味も期初計画は達成する見込み

#### 営業利益



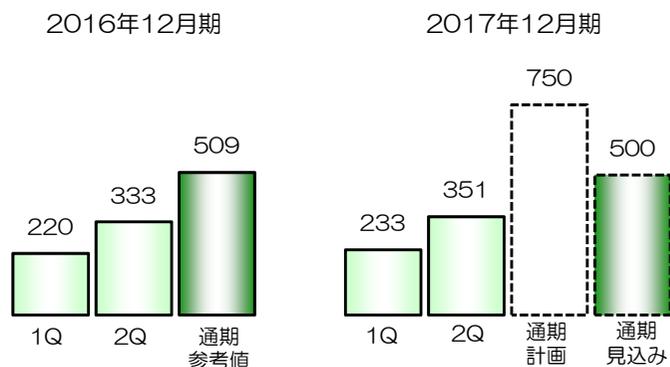
## 2. 今期の見通しと 経営戦略

# 2017年12月期決算見通し 事業セグメント別

### 環境プラント事業

(期初計画からの変更) <受注高・営業利益>

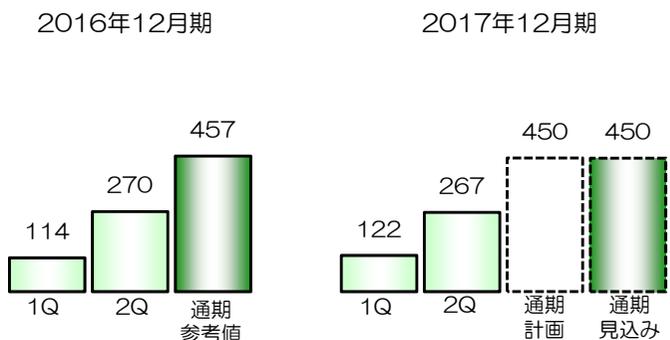
#### 受注高



#### 【受注高】

- ✓ 大型案件の失注等で見通しを下方修正

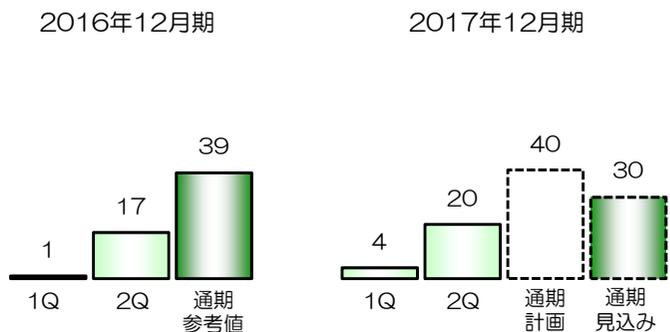
#### 売上高



#### 【売上高】

- ✓ 計画通り着地する見込み

#### 営業利益



#### 【営業利益】

- ✓ 複数年度にわたり売上計上する案件の一部で、原価の発生が想定よりも前倒しとなる

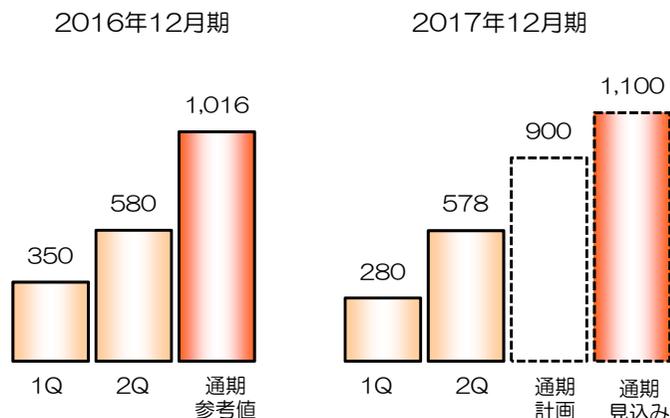
## 2. 今期の見通しと 経営戦略

# 2017年12月期決算見通し 事業セグメント別

### 精密・電子事業

(期初計画からの変更) <受注高・売上高・営業利益>

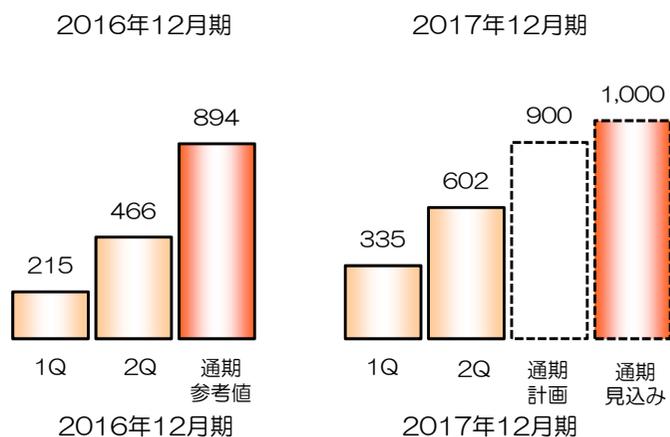
#### 受注高



#### 【受注高・売上高】

- ✓ 半導体市場の設備投資は来期も好調持続の見込み
- ✓ 今期は特に積極的なメモリ関連の投資を背景に  
コンポーネント事業が上振れ

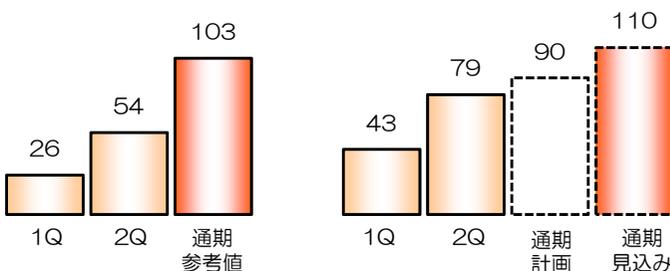
#### 売上高



#### 【営業利益】

- ✓ 増収効果
- ✓ 売上増加によりコストも一定程度増加する見込み

#### 営業利益



<空白>

# 事業別 受注高の内訳

## 受注高

	通期					第2四半期		
	〈参考値〉 2016年 12月期 実績	2017年 12月期			増減	2017年 3月期 実績	2017年 12月期 実績	増減
		期初計画	見込み	増減				
風水力事業								
ポンプ	1,456	1,500	1,500	-	+ 43	830	<b>918</b>	+ 88
コンプレッサ・タービン	445	500	550	+ 50	+ 104	238	<b>332</b>	+ 94
冷熱	275	250	250	-	△ 25	159	<b>173</b>	+ 14
その他	138	130	130	-	△ 8	91	<b>56</b>	△ 34
風水力事業 計	2,315	2,380	2,430	+ 50	+ 114	1,319	<b>1,482</b>	+ 162
環境プラント事業								
環境プラント	509	750	500	△ 250	△ 9	333	<b>351</b>	+ 18
環境プラント事業 計	509	750	500	△ 250	△ 9	333	<b>351</b>	+ 18
精密・電子事業								
コンポーネント	399	340	490	+ 150	+ 90	196	<b>281</b>	+ 85
CMP装置	579	495	545	+ 50	△ 34	361	<b>256</b>	△ 104
その他	37	65	65	-	+ 27	22	<b>40</b>	+ 17
精密・電子事業 計	1,016	900	1,100	+ 200	+ 83	580	<b>578</b>	△ 2
その他	12	10	10	-	△ 2	8	<b>8</b>	△ 0
その他 計	12	10	10	-	△ 2	8	<b>8</b>	△ 0
合計	3,854	4,040	4,040	-	+ 185	2,241	<b>2,419</b>	+ 178

# 事業別 売上高の内訳

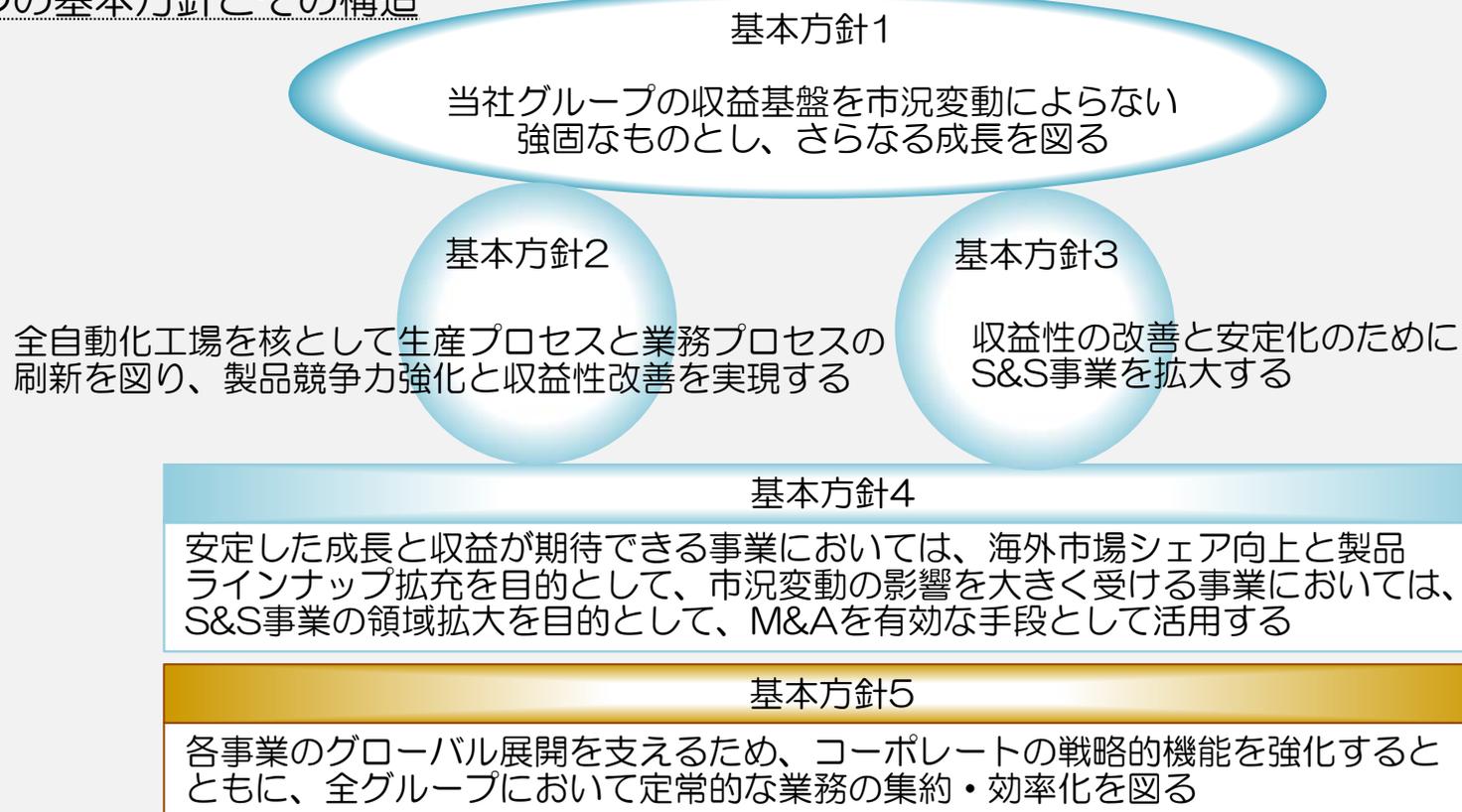
## 売上高

	通期					第2四半期		
	〈参考値〉 2016年 12月期 実績	2017年 12月期			増減	2017年 3月期 実績	2017年 12月期 実績	増減
		期初計画	見込み	増減				
風水力事業								
ポンプ	1,269	1,300	1,300	-	+ 30	680	707	+ 27
コンプレッサ・タービン	480	500	500	-	+ 19	272	297	+ 24
冷熱	250	250	250	-	△ 0	124	133	+ 9
その他	139	130	130	-	△ 9	96	51	△ 45
風水力事業 計	2,138	2,180	2,180	-	+ 41	1,174	1,189	+ 15
環境プラント事業								
環境プラント	457	450	450	-	△ 7	270	267	△ 2
環境プラント事業 計	457	450	450	-	△ 7	270	267	△ 2
精密・電子事業								
コンポーネント	379	340	440	+ 100	+ 60	191	276	+ 85
CMP装置	458	495	495	-	+ 36	237	293	+ 56
その他	56	65	65	-	+ 8	38	32	△ 6
精密・電子事業 計	894	900	1,000	+ 100	+ 105	466	602	+ 136
その他	12	10	10	-	△ 2	8	8	△ 0
その他 計	12	10	10	-	△ 2	8	8	△ 0
合計	3,502	3,540	3,640	+ 100	+ 137	1,919	2,067	+ 148

E-Plan2019におけるポンプ事業の位置付け

E-Plan2019：“成長への飽くなき挑戦”

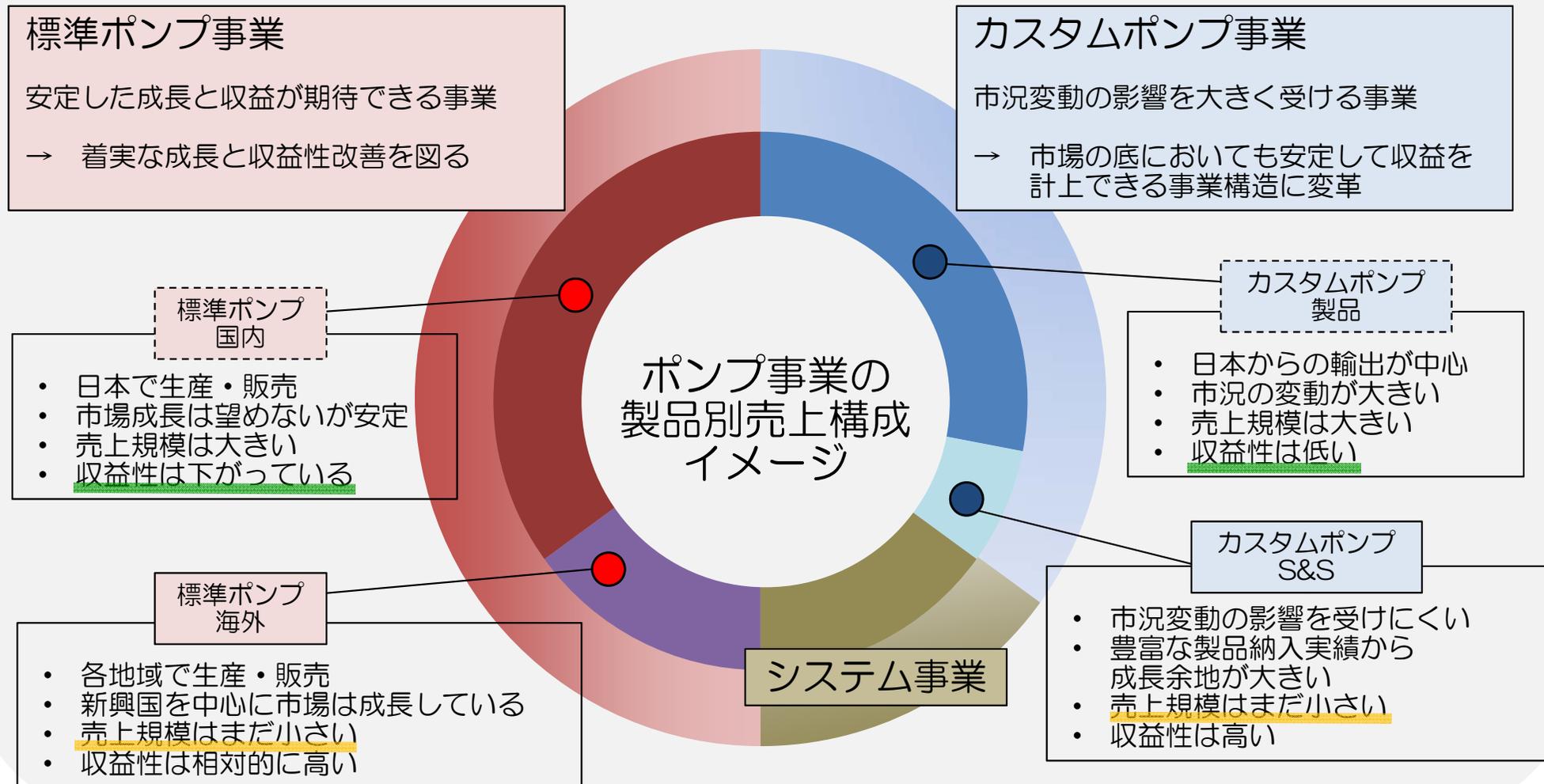
5つの基本方針とその構造



「E-Plan2019」では利益成長を重視し全事業での収益性を向上させる

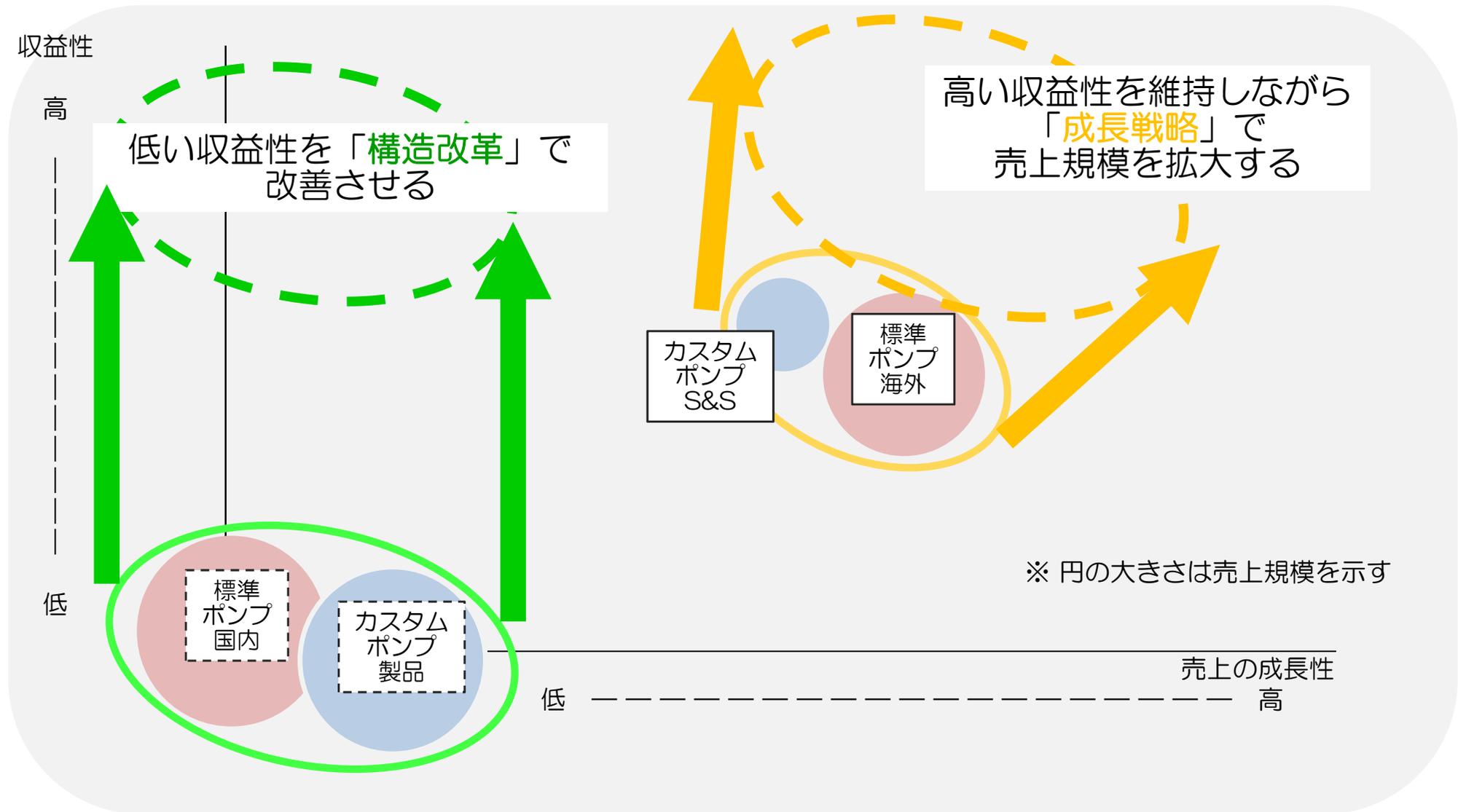
➤ 最大の事業である「ポンプ事業」の収益性改善が最重要テーマ

### ポンプ事業の現在



➤ 標準ポンプ、カスタムポンプそれぞれに収益性と売上規模に課題がある

ポンプ事業の現在とありたい姿



- 「構造改革」で収益性を改善し、「成長戦略」で売上規模を拡大する

### 構造改革の進捗状況

#### 標準ポンプ・国内

- 1) 既存機種の統廃合
  - 削減後の出荷台数は前年同期比で増加
- 2) 生産体制の抜本的な見直し
  - 自動組立てライン構築の詳細を計画中
- 3) 業務の効率化
  - [工場] 業務システムの連携を強化
  - [営業] 見積・問合せ業務を専門部門に集約

クラウド型のアプリケーションやウェブ活用

#### カスタムポンプ・製品

- 1) 産業別のマーケティング組織を強化
- 2) “デジタル化”の推進
  - 海外拠点への展開も視野に入れ、  
生産・販売の基幹システムを拡充
- 3) 業務の標準化
  - 市場ニーズに合わせ製品仕様をパターン化

#### 標準ポンプ・国内

#### カスタムポンプ・製品

### 国内ポンプ事業の人員適正化

- 業務の最適化を行い、非正規雇用者の見直しと正規雇用者の再配置を実施
  - 国内ポンプ事業の人員規模は 2割程度減少
- 「構造改革」のポイントとなる効率化は順調に進捗している

### 成長戦略の進捗状況

#### 標準ポンプ・海外

- 1) 新製品を継続的に市場投入
  - ▶ 標準ポンプの海外売上高比率は前年同期比で増加
- 2) M&Aの活用
  - ▶ 海外市場シェア向上と製品ラインナップ拡充が目的
  - ▶ 2017年8月、南アフリカの企業を買収

#### カスタムポンプ・S&S

#### 海外S&S事業の拡大

- ▶ 海外拠点に営業・技術人員をさらに派遣し、技術力の強化や現地従業員の教育を行う
- ▶ 派遣人数はポンプ事業全体で約50名

#### ▶ 「成長戦略」のポイントは、海外拠点の拡充



短・中期的に構造改革で、中・長期的に成長戦略で事業価値向上を目指す

本資料に記載されている業績予想・計画ならびに将来予測は、本資料の発表日現在において入手可能な情報および、将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定、を前提としています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。